

平成 20 年度採択案件の例

情熱大陸：伊豆「真っ赤ないちご」と「真っ赤な野菜シリーズ」活用プロジェクト

【伊豆の国市商工会（静岡県）】

伊豆の国市の収益源は、観光サービス業と農業であるが、いずれも減少傾向にある。そこで、地元農産品を活用した商品開発を行い、新加工業者の創出と観光業での売り上げ向上を目指す。地元名産品である「真っ赤ないちご」と現在試験段階の「真っ赤な大根」を活用する。使用する農産物は地元、アイデアは地元学校・研究所、企画は都内の専門パティシエ、生産は新規地元加工業者、販売は企画に賛同いただいた料理人ルートからと、各専門家、賛同者との分業体制を敷くことにより、早い時期に商業ベースに乗れる見込みをつけた、農商工連携のビジネスモデルになると考えている。



「赤い」シリーズ

べにほっぺ

千三百年の感謝を受け継ぐ 九州唯一のどぶろく（祭り）の里づくり事業

【杵築市商工会（大分県）】

平成の大合併により新杵築市（杵築市、山香町、大田村の合併）となったが、旧大田村では和銅 3 年（710 年）から約 1300 年続く「どぶろく祭り」が毎年開催され、わずか 1,700 人余りの小さな集落に 30,000 人の参拝者が訪れる。特区以外で昔から「どぶろく」づくりが行われているのは、岐阜県白川郷と旧大田村の 2 箇所だけである。

西暦 2010 年には 1,300 年を向かえることになり、多くの参拝者に訪れてもらえるように、PR 活動を行うと共に、地域の特産品開発に取り組み、全国的に通用する商品開発を行う。



どぶろく



どぶろく祭り



白髭田神社

小田原市産業観光ブランド構築事業

【小田原箱根商工会議所（神奈川県）】

寄木細工・漆器や蒲鉾などの水産練り製品、豆相人車鉄道をはじめとする地域資源を「産業観光」の視点でとらえ直し、産業観光ルートや見学・体験プログラム、特産品を開発し、小田原ブランドを全国に発信していく。新たな観光需要を掘り起こすとともに、来訪者の回遊性を図り、消費の拡大を目指す。



蒲鉾づくりの体験



豆相人車鉄道の模型

日本三景天橋立のまち宮津・魅て食べて癒しの観光プロジェクト

【宮津商工会議所（京都府）】

この地でしか獲れない日本一大きい「丹後とり貝」などの海の幸を活用した名物料理の開発を通して、最高級の水産物が楽しめる地域としての食のブランド化を構築する。また、市民が執筆した小説に基づく映画が撮影されているが、この地域映画を基軸としたロケ地巡りツアーを実施するなど、日本三景「天橋立」以外の商品づくりを進めていく。



カトリック宮津教会



上世屋の伝統工芸・藤織りを撮影